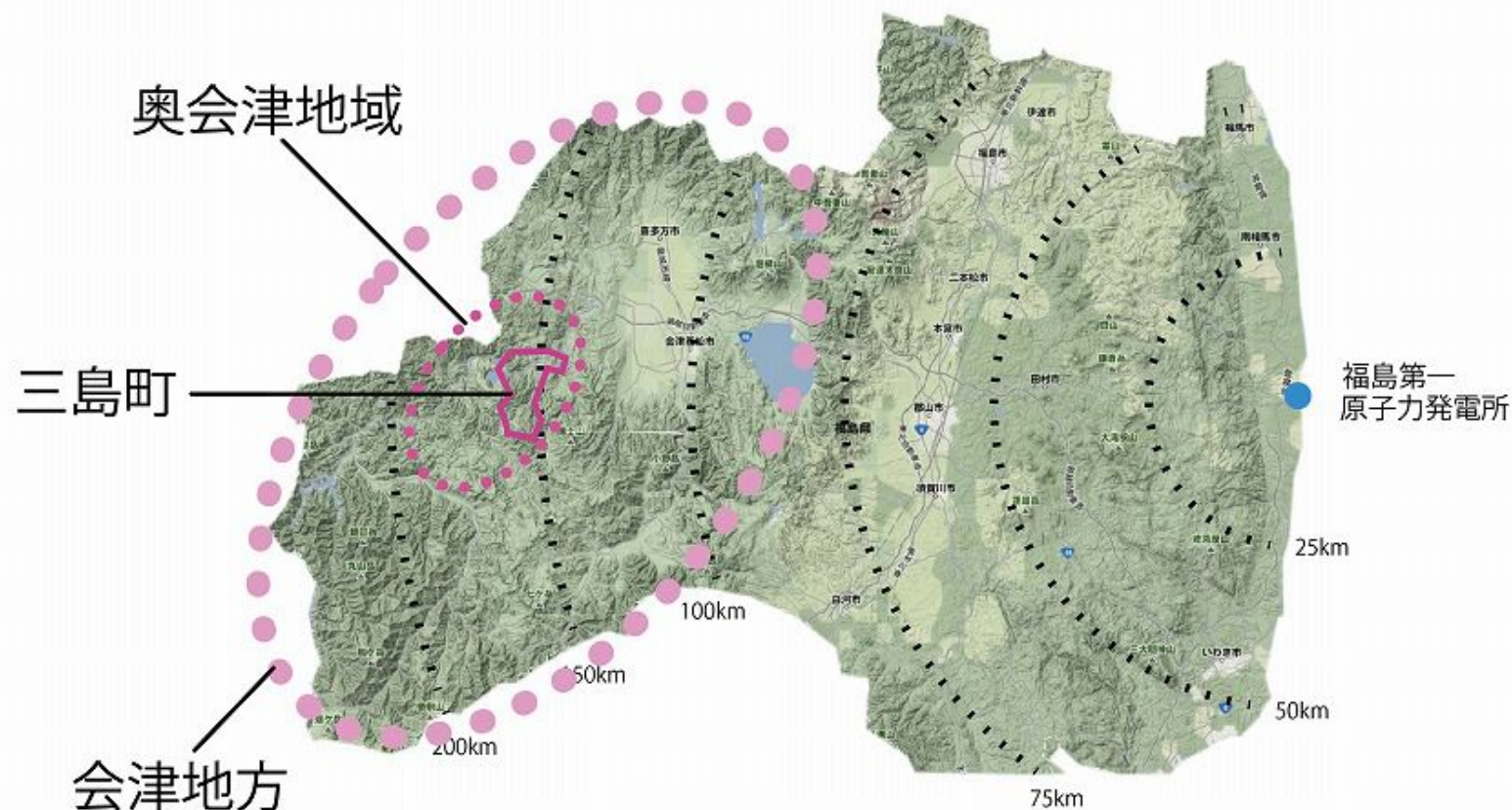




地域と共に生きるための持続可能なライフスタイルを創造する

一般社団法人 I O R I 倶楽部



日本の森林面積

国土の 68%

福島県の森林面積

県土の 71%

会津地方の森林面積

地域の 74%

三島町の森林面積

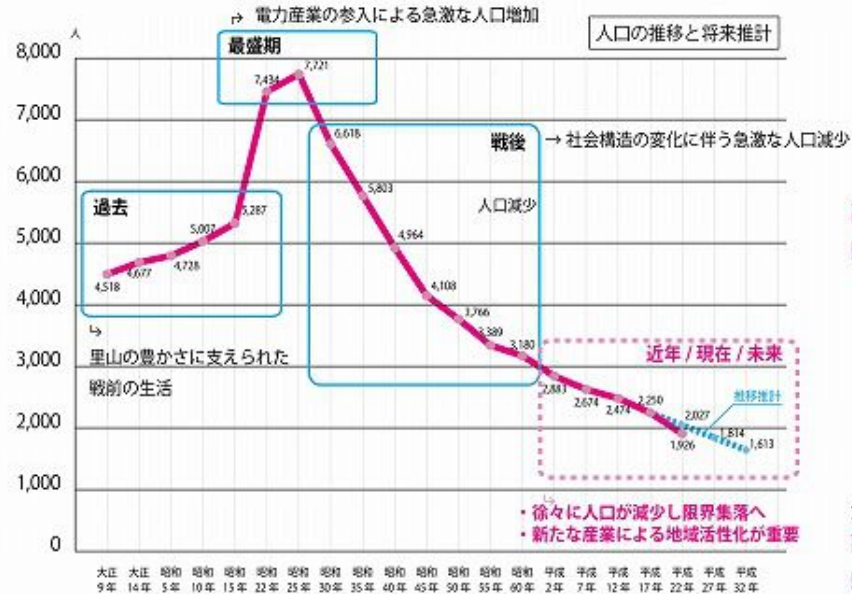
町土の 86%

・三島町の森林面積



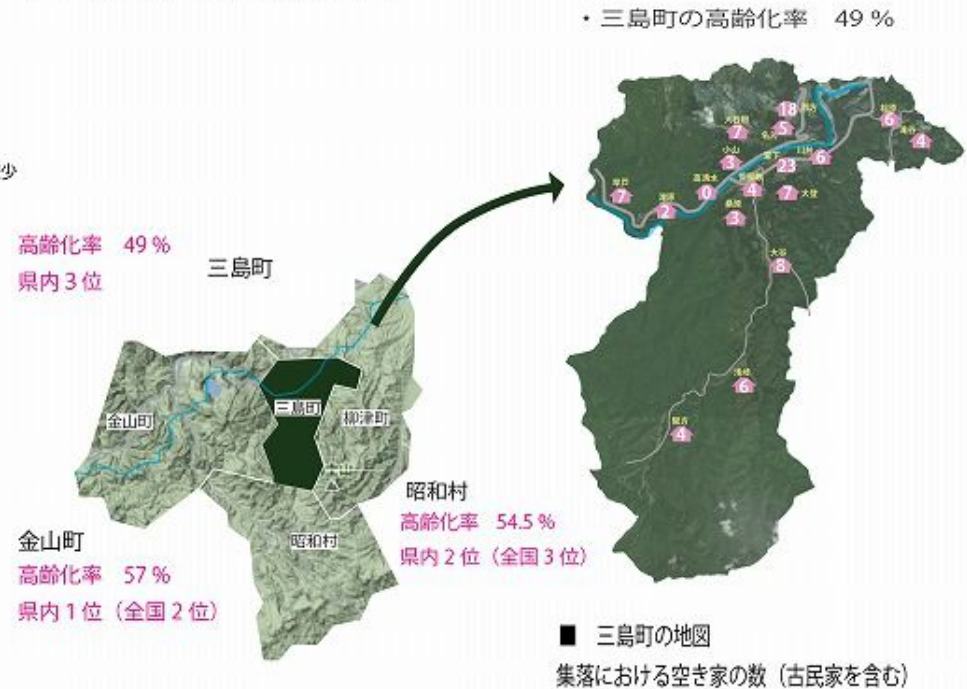
地域の現状（奥会津と三島町）

■ 三島町の人口の推移



平成 17 年から平成 22 年にかけての人口減少率は 14.4% となり福島県下ワースト 1 を記録する
 (10 年後の総人口は 1600 人台へ減少すると予測 国勢調査、国立社会保障人口問題研究所 (H20 年 12 推計))

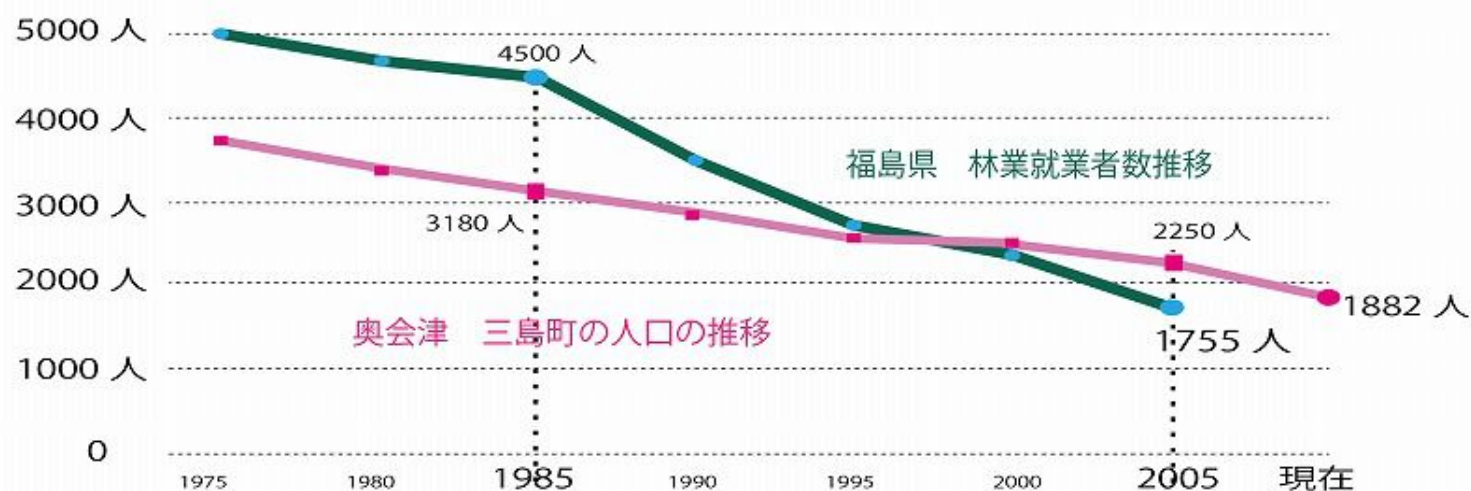
■ 奥会津地域の高齢化率



■ 三島町の概要 (平成 25 年 5 月 1 日現在のデータ)

- ・ 面積 90.83 k m²
- ・ 世帯数 826 世帯
- ・ 人口 1882 人
- ・ 年間積雪量 6~10m

福島県の林業就業者数と奥会津三島町の人口の推移



県内林業就業者数の減少

三島町の人口の減少

20年間で6割減少

20年間で3割減少

山に纏わる産業の衰退

過疎高齢化

地域と共に生きるための佐久間建設の取り組み



山と木を活かすために

山の現状を多くの人に知ってもらいながら、木の良さを共有するための様々な取り組みを行っています。



地域の保全

インフラの維持保全や、緊急時のライフライン等整備など、地域の生活を守っています。



品質管理

丸太や製材された木材には、番号を振分け管理を徹底しており、木材履歴を明確にしています。



木造仮設住宅プロジェクト

木のぬくもりによって、被災された方々の心を癒す住まいを目指し、職人の技と地域の木材をふんだんに使った木造仮設住宅の提案・施工を行いました。



古民家のリノベーション

金津の伝統的な技によって作られた空き民家を改修し、新たな活用方法を見付けることで地域の定住・二地域居住促進に貢献いたします。



早戸温泉つるの湯を施工

地域の総合ゼネコンとして培ってきた、確かな技術と信頼に加え、伝統と文化に育まれた匠の技術を受け継ぎ、すまいづくりに取り組んでいます。

奥会津の山の力で里の生活を支えたい

森林
の
保全

地域
の
保全

素材
の
生産

木材
の
ストック

木材
の
加工

すまい
について
の
相談

すまい
の
デザイン

すまい
づくり

木製品の
デザイン・
製作

ライフ
スタイルの
サポート



伐採搬出・素材生産

会津の山は、急斜面で作業環境が決まっております。杉・桐・広葉樹を熟練された技術を用いて伐採していきます。新月伐の伐採も研究しています。



製材・乾燥・ストック

木材乾燥機を用いることで、木材循環を効率的にしていきます。保管の仕方にもこだわりを持っています。



加工・販売

地域材100%をお届けします。丸太から加工品まで幅広く取扱っています。



素材と技が活かせるデザイン・製作・施工

地域から産出される森林資源を有効に活用すること、住まう方々の生活が豊かになるためのデザインを日々研究しています。生活を彩る木製品のデザイン・製作をお引き受けしています。



除雪作業

冬の生活を支えるための、除雪作業を行っています。

ウッドショップの運営

森林事業では、ウッドショップ森のしこと舎の運営をしています。薪炭天板やテーブルなどの販売や目見えツアーなど山全体の魅力をお伝えしています。

[P検索](#) 森のしこと舎HP

モデルハウスの運営

早戸温泉つるの湯に隣接する、モデルハウス「つるの1081」を運営しています。地域に根差した新しい生活スタイルを提案するための、異業種連携による研究グループ「1081倶楽部」のコンセプトハウスです。すまいや生活についての幅広い相談に対応しております。セミナーやワークショップの会場としても多くの方にご利用いただいています。



開館時間：10:00～17:00 定休日：毎週 水・木 お問い合わせ：1081倶楽部事務局 090-1098-0643

農的生活から
エコジカルライフまで
幅広く応援しています！



資源



只見川流域の 豊富な森林資源

- ・ 樹齢60年から80年の
伐採適齢期を迎えたスギ
- ・ 用材としての活用が期待される広葉樹
- ・ 手入れが届かなく節が多い→値が安い材

連携



価値を共有する 多才なステークホルダー

- ・ 生産者 ・ 林家
- ・ 工務店 ・ 設備会社
- ・ 製材所 ・ 設計士

etc . . .

高付加価値化



家具・住まい造り

- ・ 一般住宅（定住・二地域居住）
- ・ 仮設復興住宅

山に関わる多様な職種との連携によって山資源の**高付加価値化**を目指す



新しいライフスタイルの創造

地域と共に生きるための持続可能なライフスタイルを創造する

IORI に込めた思い

「IORI」という表記は、元々は「庵」であり、古来「草木や竹などを材料としてつくった質素な小屋。僧・隠者などが住む小さな住居や、農作業などの仮小屋」を表す言葉でした。

「庵」ではない「IORI」という表記には「都市郊外や里山での簡素な暮らしの営みを支えるための、木材や自然素材など身近なもので作られた、シンプルでコンパクトな住居」という新しい時代の「ライフスタイル」を想起させる、私達の思いが込められています。

IORI 倶楽部とは

「地域と共に生きる」ためのライフスタイルデザインを追求する集団です。森を守り育てる人、素材を生み出す人、それらを活かして「もの」をつくる人、そして生み出された「もの」と共に生活を営む人、多くの仲間によって共感の輪が広がり始めています。

今最も力を注いでいる取り組みは、懐深い緑に包まれた「ふくしま」の地において「豊かな自然と共生するシンプルな暮らし」を模索し提案することです。



つるのIORI内観写真



松



栗



クルミ



桐



スギ

床材のサンプル



枡の天板のテーブル



薪ストーブ



つるのIORI外観

- ・板倉構法の採用 → ・木の特性を活かした住まいの需要喚起
- ・会津の民家に習った骨太の構造 → ・長尺大断面の地域材の活用
- ・多種にわたる材を適材適所に応用する → ・材の高付加価値化



- ・木の良さを活かす伝統的な大工技術
- ・製材所の加工の様子
- ・木の住まいづくり

・知ってもらえる機会を作りながら
共感者を増やす取り組み

・要所において開催される
勉強会



■ 会津城北地区 17棟+1棟(集会場) 36世帯



■ 奥会津地区 3棟 8世帯



■ いわき高久地区 76棟 162世帯



合計 97棟 206世帯 集会所1棟 の建設
板倉構造による木造仮設住宅が風景をつくっている



構造と化粧を兼ねる「落とし板パネル」



「落とし板パネル」を落とし込む状況



壁の構造



断熱材 屋根に敷き込まれた萱

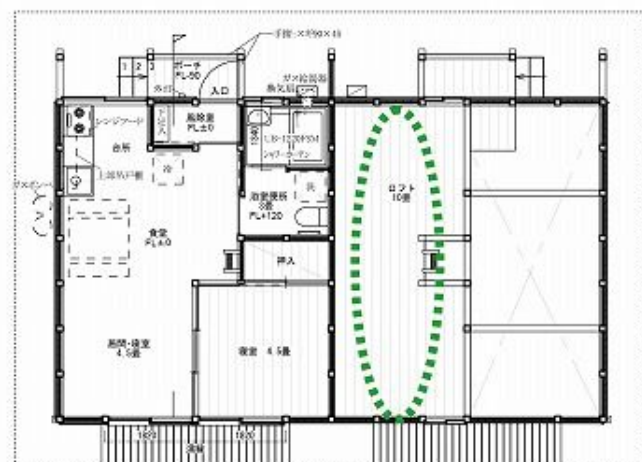


断熱材 床に敷き込まれた稲殻

県が要望する仮設住宅の断熱性能を自然素材の使用によってクリア

2軒タイプ
1戸当り
2戸
建築/延べ床面積 34.72㎡(13.5坪)/29.14㎡(12.0坪) 1+0フロア 15.56㎡(5.0坪)
建築/延べ床面積 69.56㎡(27.1坪)/79.49㎡(30.0坪) 1+0フロア 31.12㎡(9.3坪)

杉板倉の被災者住宅 B[30㎡]



床30㎡に対して15㎡のロフトスペース（収納や接客の際に重宝されている）



木のぬくもりを伝える浴室

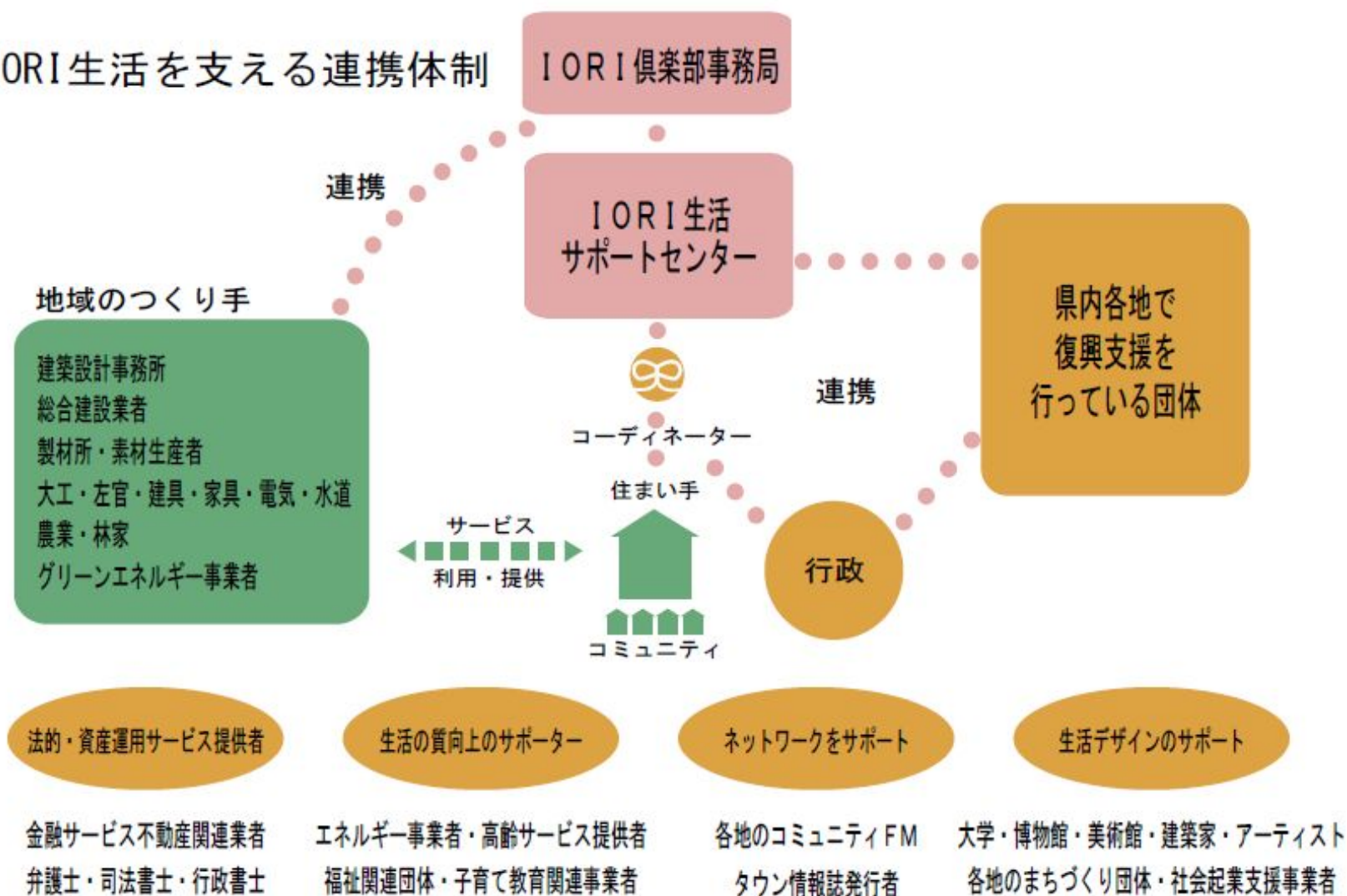


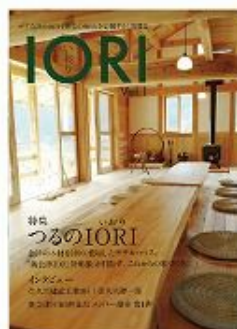
部屋境の木製建具

1戸当たり10.5坪（2DK 30㎡タイプ）

各戸坪あたり **約 2 m³** の木材使用量（構造材・基礎杭・内外部造作材を含む）

IORI生活を支える連携体制





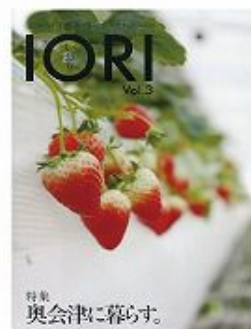
1 号

- 地域材を活用したモデル住宅
つるの IORI について



2 号

- 板倉構法の仮設住宅
木造応急仮設住宅について



3 号

- 奥会津に住む
農業法人「彩の里」
奥会津の手仕事・民家



4 号

- 山と暮らしを結ぶ
山の恵みを届ける
すまいづくり



5 号

- IORI のものづくり
地域と山がもたらす恵みに
よって生み出されるものの特集



6 号

- 住みつなぐ
古民家改修と空家の現状



7 号

- エネルギーを選ぶ
エネルギーにまつわる地域の様々な活動について

会津の山力で暮らしを応援する冊子 機関紙 IORI
山に纏わる多様な取り組みを冊子にて紹介

[illegible]

「山」に纏わる様々なキャラクターを紹介
会津の山と関わる多様な職種の山と木に対する想いを掲載



■ 奥会津の古民家の特徴



豊かな山の資源と冬場の雪の重みを受けるための堅牢な構造体
山から採れる様々な樹種を適材適所に用いている



里山の風景



奥会津の山から生産された板材

■ 奥会津の古民家の現状（解決が望まれている古民家活用の課題）



その内の多くは空き家となり、損傷や老朽化が進んでいるものも数多く見られている。



空家の雪害



内部の状況

古民家の喪失＝地域資源の喪失



共用リビング



オフィス



杉の火鉢



台 所



薪ストーブ



開所式の様子

空き古民家を大切な地域資源と見立てた・・・

佐久間建設工事業が考える
古民家活用の
ビジョン

時代のニーズとマッチングした新規ビジネス創出の場 → オフィスコロポックル@奥会津サテライト
株式会社 toor の誘致

古民家を活用した定住・二地域居住の推進の場 → 古民家改修型モデルハウス 清匠庵

被災者を受け入れる復興住宅への転用

柱梁等古材の再利用

etc.....

ターゲット

- 古民家のオフィス化 オフィスの立地条件にとらわれない企業（IT業 デザイン業等）
- 復興住宅 現在仮設住宅に入居している被災者の新たな生活の受け皿
- 定住・二地域居住 自然豊かな場所で生活を送りたい住宅希望者



地域における
古民家活用の
目的

- 空き家対策
- 人的交流の促進
- 新たな産業の創出

を目的とした社会実験



「朽の王国」トレッキング & 巨木見学会



里山で
行われる100年杉の雪上伐倒見学会

緑の住宅普及支援事業

ほとんどの人が見たことがない「伐倒」
実際に見学してもらい奥会津の山の木の習性や話し方、
それらが生活の中で活用されることの豊かさについて実感していただけます。

イベントスケジュール

08:00	モデラ住宅「つるの」IORIにて主催者挨拶・参加者紹介 奥会津IORI推進部の活動とモデラ住宅の紹介
09:30	昼食
10:30	伐倒会場に移動
11:00	伐倒スタート
12:00	モデラ住宅に引き抜かれた木の活用についてのお話
13:00	質疑応答終了

※写真は「つるの」の入り口よりモデラ住宅までの参加経路が可視です。

2012.3.3(sat)
参加費無料

会場：つるのIORI
奥会津大沼郡三島町大字早川1番の平野の森
主催：奥会津IORI推進部、奥会津木材協同組合連合会
心づき山みち・奥会津IORI推進部事務局 住吉 里由樹太郎
〒969-7136 福島県大沼郡三島町大字早川1番の平野
Tel.090-1655-9442 E-mail:iori@sakuno-h.co.jp



大木の抜倒見学会



「山と木の市場」に協賛
三島町で開催される工人祭り同時開催



東北芸工大学・建築環境デザイン学科の

学生との協働による山の遊歩道づくり



元筑波大学大学院教授安藤邦廣先生を招いて行われた勉強会の様子

会津の杉材を活かす 骨太の構造材とシンプルな架構



46

移築を前提とした主な建築的配慮

- 移築を検討するに当たり、考慮した技術のポイントを以下に示す。
1. **耐久耐火性への配慮**
 - ・移築する場合、解体時の破損がその後の間隔の増大とコストUPを招く。
 - ・破損を防止するため、解体は
 - ・主要構造材は出来る限り大断面大断面で使用する。
 - ・継手の箇所を減らすために素材を用いる。
 - ・板金は下地・仕上の如何に関わらず厚いものを使用する。
 2. **耐震性への配慮**
 - ・耐震性のある部材を使用し、解体時の雨や雪による劣化を防ぐ。
 3. **部材再使用率の向上**
 - ・部材の再使用率を上げ、加工の半額や部材再調達のコストを軽減する。
 - ・主要構造部分に関しては、伝統的な継手、口金を用いる。
 - ・極力金物を排し、接合部の劣化と工事時の破損防止に配慮する。
 - ・仕上物や塗布部材は取り外すことと前並せと、接築工法は極力接合、ビスや化剤等での取り付けとする。
 4. **施工工数の削減**
 - ・床は4寸角の大引と1寸厚の床板を使用し、根太を省略する。
 - ・垂木に沿って天井と床を貼りとす。下地板より漏れの拡大を防ぐ。
 5. **廃棄部材のマテリアル利用とリサイクル**
 - ・解体時の破損部材や再利用不可の部材の発生を極力削減する。
 - ・木材に関しては、その後の素材としての利用が難しいエンジニアリングウッドや注水木材の廃棄は避け、無垢材を使用する。



移築を考慮したディテール

- 6寸角の通し柱
通し柱は6寸角とする等、主要構造部は出来る限り大きな断面で使用し、梁等の箇所を減らすため、長尺材を用いる。
- 横桟材は厚30mmの杉板パネル（大壁式）
板倉式のパネルは、下地材として使用するため、節や多少の不具合があるが、使用できる。特に加工工場ではパネル化することにより、現場での施工工程の削減が可能。
- 取り外すことを前提としたディテール
部材の固定の仕方については、接合施工は極力避け、ビスや金釘での取り付けとする。



〔实施体制〕

本書V.の本グループの項参照。

〔取り組みに必要な費用の調達方法〕

事業費は、施主からの工事請負代金等で賄っており、不足分は一般社団法人 I O R | 倶楽部が負担している。

〔特に苦勞した点、工夫した点〕

懇談会を通じて、避難者の方々の恒久的な生活への移行について、生の声を聴く良い機会になると考えられる。



47

地域型復興住宅による
「住まいの復興」活動支援マニュアルに掲載された



丁寧な暮らしってどんなだろう？

このプロジェクトは一般社団法人IORI倶楽部がお手伝いしています。



会津の週末を大切にしたい人の小屋 移築実験中！



5月末日まで、随時見学を受付しています。

お問い合わせ先 IORI倶楽部事務局

080-1668-9643

地域と共に生きるための持続可能なライフスタイルを創造する

IORI倶楽部 活動マトリックス

世代を繋ぐ丁寧な暮らしを模索

住みつなぐ

新しいライフスタイル「IORI LIFE」を共に考える

人に学ぶ

教育・視察旅行の受け入れ

個々のニーズや課題を大切にする

都会の生活を山の力で応援する

丁寧な暮らしの提案

地域貢献をしたい人のサポート

化石燃料に頼らない暮らしの提案

大人の五感を回復

IORI生活サポートセンター

起業・総業のサポート

地域資源の掘り起こしと紹介

食の大切さを伝える

里山オフィス提案施設
清匠庵

空き家対策事業のサポート

木の良さを伝える

木の体験施設
つるのIORI

子供の五感を育む

定住・二地域居住希望者のサポート

森林資源活用の仕組みづくり

里山暮らし体験施設
早戸本村の古民家

創作活動を行う人のサポート

木のすまいづくりのサポート

蔵や古民家の活用をサポート

山に学ぶ

民家に学ぶ

古民家を活用した子育てネットワークの構築

子育てに対する根強いニーズ

豊かな自然や伝統文化にふれながら、五感を育み、
健康な体と、健全な心が育つような育て方をしたい。

都会の暮らし

田舎の暮らし

どちらか一方の暮らしでは、得ることができない。
しかしながら、二地域居住的生活は、子育て世帯にとって
経済的な観点から現実的ではない。
本物の自然が存在する地域に、定住してこそ可能。
地方で社会問題化している、古い民家を活用し、
都会と田舎双方の暮らしのギャップを埋める試みを行う。

- 多様な教育メニュー
- 最先端の情報
- 安全な水や食べ物
- 便利な暮らし
- 多彩なサービス
- 高度な教育

- 豊かな本物の自然
- 伝統文化
- 質の高い水や食べ物
- ゆとりのある住まい
- 地域コミュニティ
- 素朴な教育

三島町早戸字居平地区では、現在17戸中、7戸が空き家。
生活している10世帯中2世帯は、冬季は不在になる。
三島町の中で、高齢化率は一番高い。
昨年より、首都圏からITの企業家が移住し、地域のコミュニティに
活気をもたらしている。2年後には新たな世帯の移住も確定している。

旧民家集落が甦る、新しいライフスタイルを求める方への提案

見学会開催!!

里山の暮らしを楽しむ
古民家×現代民家

7月20日(日)・7月21日(祝日)
9:00~16:00 参加無料
明治中期に建築された古民家の再生事例と
自然素材たっぷりの新築民家の見学会です。



会場：福島県大沼郡三島町早戸字居平地区
主催：一般社団法人 IORI 倶楽部 お問い合わせ：事務局 090-1688-9643 担当：金澤・小松
本事業は福島県大沼郡三島町早戸字居平地区の「緑の住宅普及支援事業」の補助により開催しています。

大規模改修を行った古民家と地域材を活用した新築住宅の見学会



謹賀新年

2005年・己の午
1月1日 PM15:00 天気：雪
日々成長しております

25年間空き家だった明治中期建築の古民家を、
最小限の整備をして、1998年から2006年ま
で首都圏からの移住者が生活していた。
現在は空き家になっており、劣化が年々激し
くなってきている。
この古民家を整備して、子育てネットワーク
のモデル拠点とするプロジェクトを行う。

子育てネットワーク拠点整備PJ

ステップ1

20代~40代の子育て世代の
リアルな声を聴くWSを行う。

ステップ2

WSで集めた声を反映させて、
古民家の改修を行う。
改修はセミナーとして希望者に
スキルを伝授する。

ステップ3

必要とされるサービスの検討と
提供可能な仕組みを検討する。

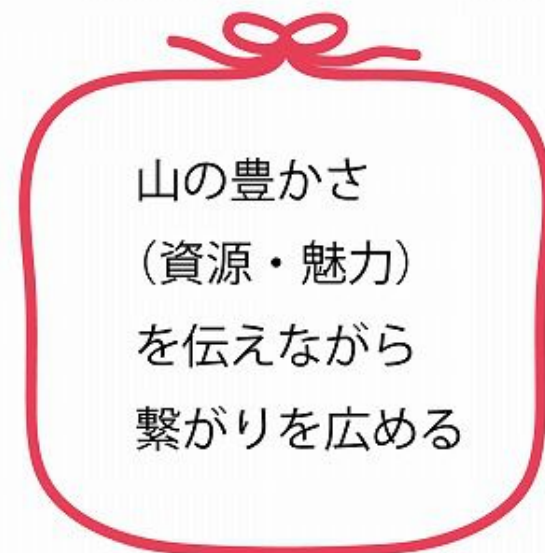
ステップ4

希望者を募り、モニタリングを
しながら、ネットワーク化を図る。

古民家の中に設置するカマドのイメージ



一般社団法人 IORI 倶楽部



地域と共に生きる